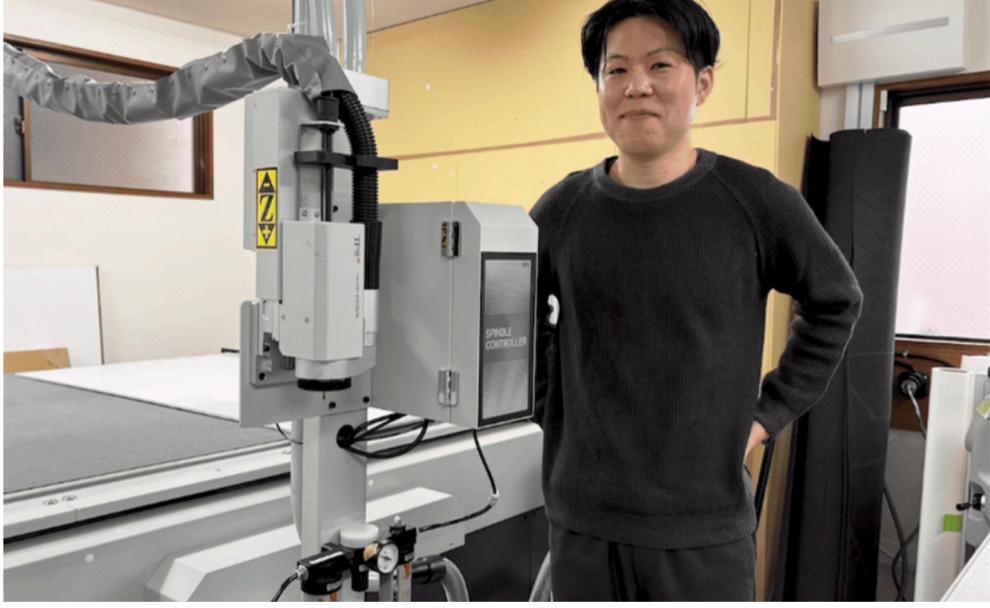


キムラアートスタジオ

外注依存の事業構造を「内製化」で転換。 売上拡大と収益性向上を実現した ディスプレイ事業

展示会等の空間演出を手がけるキムラアートスタジオ。外注先の減少という課題に対して、助成事業を活用して加工機器を導入し、「工程の内製化」を実現しました。生産性に対応力の向上により売上拡大につなげた設備投資の取組について、代表の木村郁太郎さんに伺いました。



事業内容

企画から設営まで、イベント空間の演出を一貫してプロデュース

私は、展示会やポップアップストア、見本市といったイベント空間のディスプレイ装飾を手がけています。幕張メッセや東京ビッグサイトでの展示会ブースに関わることも多く、企画・デザインから加工、設営、撤去までを一貫して担えるのが強みです。現在は基本的に一人で切り盛りしていますが、案件規模に応じて協力会社と連携する体制をとっています。

制作物は壁面パネルや装飾パーツ、サイン類など、来場者の目に触れる造作物が中心です。定型品ではないため、毎回「どう作るか」を検討し、お客様と伴走しながら空間を形にしていけるプロセスを大切にしています。

「内製化」に取り組んだ理由

外注先の減少が、将来的なリスクになると判断した

以前は加工工程の多くを外注していましたが、コロナ禍をきっかけに状況が大きく変わりました。頼りにしていた外注先の中には、職人の方の高齢化や後継者不在により、廃業されるところが出てきたのです。必要なタイミングで依頼できない場面が増え、外注先の状況によって納期や仕様で制約が生じるようになりました。結果として、ご依頼にお応えできないケースも発生していました。

売上が大きく落ち込んだわけではありませんが、このまま外注に頼り続けることは将来的な事業継続の課題になると認識したことが、内製化を強く意識するきっかけになりました。

助成事業を活用した取組

最新の加工機器を導入し、設計変更や短納期にも柔軟に対応する体制へ

助成事業を知ったきっかけは、材料の卸業者の方に設備導入の相談をした際に、「助成金を活用して購入するケースも多い」と提案を受けたことです。そこで活用したのが、今回の助成事業でした。

導入したのは、紙やアクリル、シート素材などを自動でカットできる加工機器です。この機器はカメラでトンボ（目印）を読み取り、形に合わせて精密に自動でカットできます。振動する刃で切る方式のため、柔らかい素材もきれいに仕上がるのが魅力でした。

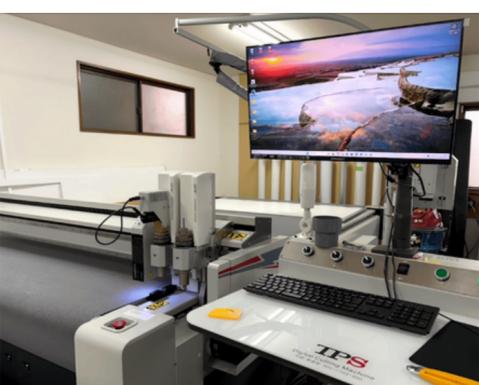
これまで外注していた加工工程を内製化しただけでなく、試作品の造作なども自社で行えるようになり、急な設計変更や短納期案件にも柔軟に対応できる体制が整いました。人の手で行っていた作業を機械化したことで、作業の精度とスピードも上がっています。



マルチカッター MTC07-2516

取組による成果や変化

売上は前年同期比で約2倍に。3カ年計画は前倒しで進行中



マルチカッター MTC07-2516

まず、対応できる業務の幅が大きく広がりました。例えば、これまで外注していた試作品やサンプルは、端材を活用してスタジオ内で即座に制作できるようになりました。そのため、外注先とのやり取りが不要になり、納期に余裕のない案件や、細かな試作品の制作にも柔軟に対応できるようになりました。お客様への提案スピード向上という面でも効果を感じています。結果として単価が上がり、受注できる数も増えました。

こうした変化は、数字としても明確に表れています。導入後は、前年同期と比較して売上が2倍以上になりました。もともと3カ年で見込んでいた売上目標は、想定より早いペースで達成できています。

加工工程の内製化によって外注費の影響を受けにくい体質へ変わったことに加え、単価アップと受注増も実現できました。収益性が改善し、以前よりも事業基盤が安定してきたと実感しています。

助成事業を活用して感じたメリット

事業の課題を客観的な「数字」で捉え直す機会になった

資金面での支援はもちろんですが、申請準備の過程そのものに意義があったと感じています。申請書類を作成する過程で、自社の課題や目指す方向性を言語化し、数字として整理できました。これまで感覚的に捉えていた部分を客観的に見直すことで、事業の強みと弱みが明確になりました。

また、個人事業主であっても、計画の妥当性が認められ採択されたことは、大きな自信になりました。

今後の展望

「人」への投資と法人化を見据え、さらなる事業拡大へ

設備が整った今、次の課題は「体制づくり」です。案件が増える中で、一人で対応できる範囲には限界があります。今後は人材を確保し、組織としてさらに広い業務に対応できる体制を構築したいと考えています。

また、より広い作業環境の確保や新たな設備投資も検討しています。将来的には事業規模を拡大し、法人化することも視野に入れていきます。



代表の木村郁太郎さん

申請を検討している事業者へのメッセージ

「何を実現したいか」を明確にし、諦めずに挑戦してほしい

申請の手続きは簡単ではありませんが、まずは諦めずに取り組んでみてほしいです。大切なのは、設備を導入して「何を実現したいのか」を明確にすること。単に助成金が出るからと投資するのではなく、今の事業の延長線上で本当に必要なものは何か、それがどう利益につながるのかを考えることが重要だと考えています。目的が明確であれば、書類作成も前向きに取り組めるはず。ぜひ、自社の未来をより良くするために挑戦してみてください。

企業情報

企業名	キムラアートスタジオ
代表者名	木村 郁太郎
創業	令和1年8月
事業内容	ディスプレイ事業(空間演出・展示装飾)
主要製品(サービス)	ポップアップ設営、大判印刷、サイン制作
申請テーマ	コロナ禍による影響に対応するための内製化
所在地	東京都足立区栗原4-22-14ヴィラフジイ101
SNS	https://www.instagram.com/kimura_art_studio/
対象助成金	令和6年度 新たな事業環境に即応した経営展開サポート助成事業

